

# 抱樸館を支える会 会報

43号



2020年8月1日発行:抱樸館を支える会

## 長住地域みんなの居場所

～福岡市南区にある長住団地取材してきました～

福岡市南区にある長住団地の集会所には「子ども勉強広場」という子どもたちの居場所があり、それ以外にも、「健康広場」「すくすく広場」

など長住地域での交流イベントが開催されています。今回は、居場所づくりの



運営を中心に行っている、長住団地の自治会長の松尾清さんにお話を伺ってきました。

ー居場所づくりを始めたきっかけを教えてください。

「民生委員として活動する中で、『孤食』を何とかしたいと感じたのがきっかけでした。民生委員という立場上、色々な相談を受けるケースがありました。その中で、社会福祉協議会からの相談があり、とある父子家庭の自宅を訪問したときに、子ども2人の食事がテーブルの上に置いてあるおにぎりだけという場面に遭遇しました。お金が無いわけではなく、お金はあるが仕事が忙しくて食事を作れない、一緒にご飯を食



べる時間をつくることができないというケースがあり、愕然としました。その様な『孤食』を何とかしたいという想いがきっかけとなり、子どもたちの居場所づくりが始まりました」

ーどのように運営されていますか。

「運営人数は、長住地域の民生委員7名とボランティアで行なっています。運営資金については、子供の未来応援基金に応募し、無事に審査を通過したので、国からの支援を受けていました。その他にも、福岡市からの補助金を受けたりもしています。補助という面では、長住団地はUR都市機構の中で地域医療福祉拠点化の地域となっていて、UR都市機構ともやり取りをした結果ですが、集会所の使用料金の減免措置を受けるなどをして運営を行なっています。

なので、子どもたちからは一切お金は受け取りません。いつでも子どもたちが気軽に遊びに来れるように運営をしています」



ーグリーンコープとの出会いを教えてください。

「2018年に内閣府主催で、子供の未来応援基金の支援を受けた関連団体と企業とのマッチングフォーラムが開催され、そこでグリーンコープさんと出会いました。それから、食

材提供などの支援を受けるようになりました。色々な食材提供を受ける中で、冷凍食品をたくさんいただいているので、専用の大きい冷凍庫も購入しました」

――居場所はいつからスタートしたのですか。

「2016年よりスタートし、今年で丸4年になります。長住団地には、約1,300世帯、3,000人の方々が暮らしています。その中で65歳以上の方は約1,000人にもなります。以前は、子どものいる家庭が少なかったのですが、ここ数年で未就学児や小学生の子どもが



いる世帯が増えてきています。なので、子どもたちが来る人数は右肩上がりですね。平均で1日あたり約35人の子どもたちがやって来ます。夏休みになると多いときで60人ほどの子どもたちが来ます。年代は小学生から中学生が中心ですが、居場所がスタートした4年前からずっと通っている子どもは、もう高校生になりました。今でも時々ご飯を食べにやって来ますよ」

――活動はどれぐらいの頻度でされていますか。

「活動は、月2回で第2・4金曜の17時から21時まで行っています。対象は、長住団地の子どもたちだけではなく、長住地域に住む子どもたちがみんなやってきます。17時頃から子どもたちは集まってきて、各々が自由に過ごします。『子ども勉強広場』と言うと勉強をするイメージですが、ここは子どもたちの『居場所』です。だから、いつ来てもいいですし、何をして過ごすかも自由です。子どもたちは、勉強をしたり、友達と一緒に話をしたり、遊んだり、パソコンや読書をしたりして過ごしています。居場所では何もし



ない子どももありますが、何もしないと言っても、ここに来ることそのものが社会参加になるので、それが社会勉強に繋がっていると思います。だから、『何もしていない』ということはないですね」

――活動時間が21時と遅くまでされていますね。

「残業をしている親御さんがおられるので、21時まですることにしています。会社で少し残業をすれば帰宅の時間が20時、21時になることもしばしばあります。遅くなる時でも、親御さんはもちろんですが、何より子どもたちが安心して過ごすことができるように、21時までやっています。仕事が終わった親御さんは、長住団地の集会所に迎えにこられるのですが、21時を過ぎても家にたどり着かない方もいます。その時は、子どもたちを自宅まで送り届ける『親父隊』の出番です。

この親父隊は、長住団地内在住のメンバー8名で活動していて、団地内の安全を守るため、定期的



に巡回を行っています。その巡回と合わせて、子どもたちを送り届けます」

長住団地自治会の副会長で食事作りを担当している櫛橋洋子さんにお話を伺いました。

――たくさん子どもたちにご飯を作られています。準備は何人ぐらいでされていますか。

「自治会長の松尾さんも言われていましたが、子どもたちの学校があるときは、平均して35人ほどくるので、食事の量としては約40人分準備します。子どもたちにはお腹いっぱい食べて欲しいので、おかわりの分も含めて作ります」



「料理をするのは、基本的に3人です。春・夏・冬休みなど学校が休みになるシーズンは子どもたちも60人ほどに増えるので、その時は、増員して作っています。長期の休みは、活動の時間帯を変えて、9時半から13時で活動し、昼食をつくって提供しています」



「メニューを考えるときは、子どもたちが好きそうなものをイメージして考えますね。子どもたちは、お肉類や、味付けが濃いものがみんな好きですね。この居場所に来て、手づくりの温かいご飯を、お腹いっぱい食べて、子どもたちが笑顔になってくれると一番嬉しいです」



(写真：取材当日は八宝菜でした)

――今後やりたいことを教えてください。

「今まで通り、衛生面に気をつけて、安全で、子どもたちに喜んでもらえる食事をつくり続けることです」

普段は調理担当のほか、「健康広場」や「すすく広場」の担当をしている、湯原とし子さんにお話を伺ってきました。

――活動内容について教えてください。

「健康広場は月2回で第2・4水曜の13時半から15時まで活動しています。どなたでも参加していいようにしているのですが、平日の昼間



に開催することもあり、高齢者が多く参加されています。活動内容は、健康にまつわる話を聞いたり、長住団地近くにある薬局の方がきて話を聞いたり、ジムの方がこられて一

緒に体操をしたりします。グリーンコープさんからも年に4回程参加いただき、前回はお金にまつわる相談会を開催してもらいました。その他に、カフェを開いたり、おやつを食べたりするなどし、交流の場所にもなっています」

「すすく広場については、月1回で第3火曜の10時から12時に活動をしています。対象は未就園児とその親です。小さい子どもたちが楽しんでもらえるよう、集会所の床にマットを敷き、屋内のジャングルジムや滑り台などの遊具を設置しています。この時は、スタッフを4名配置し、子どもたちと一緒に遊びます。その間に、ママ友同士でおしゃべりをしてもらうなどし、お母さんの息抜きの場所にもなっています。前回の参加者は、8組で団地の外から参加されている方もいました。ママ友のグループラインもあるので、今後も参加者が増えそうです」

「年に1回イベントを開催していて、今年はひな祭りの催しをしました。このときに、地域の有志の方から寄贈を受けた7段雛人形の展示をしました。今は、自宅で大きな雛人形を見ることが少ないと思うので、みんな楽しんでもらえたと思います。そして今後もより多くの方に参加してもらえようにしたいです」

――最後に松尾会長の今後の抱負を聞かせて下さい。

「運営を始めて丸4年でおおよその数ですが、延べ1万人の子どもたちと関わりを持ってきました。全ては、子どもたちのためにと思い活動をしています。今も、これからも変わらずにしていきたいことは、子どもたちみんなに、ご飯をお腹いっぱい食べて欲しいということです。居場所を始めたきっかけは『孤食』を何とかしたいという想いからでしたので、そこはこれからも変わりません」

「コロナ禍ではありますがこのような社会情勢だからこそ、居場所を開き続けていきたいです。居場所には、色々な子どもたちがやってきます。定期的に来る子もいれば、2～3ヶ月ぶりや半年ぶりに来る子もいます。これまで一度も休むことなく運営をしてきました。それは、ここが子どもたちにとっての『拠りどころ』だからです。これからも、子どもたちの拠りどころとなる居場所であり続けていきたいですね」

――ありがとうございました。



2020年7月吉日

一般社団法人 抱樸館を支える会  
賛助会員の皆さま

一般社団法人 抱樸館を支える会  
会長 行岡 良治

「抱樸館を支える会」の賛助会員数が本（20）年6月末現在、  
9,863名になりました。あと137名で「夢の1万名」に到達  
します。

さて、今（20）年も6月16日に、「一般社団法人 抱樸館を支える会」の第10期  
定時社員総会が開催され、昨（19）年度の決算報告をはじめ、必要なすべての議案に  
ついて、承認・可決いただくことが出来ました。うけて、「抱樸館を支える会」の昨（1  
9）年度決算報告と「抱樸館福岡」の経営状況ほかについて、以下のとおり、ご報告い  
たします。

#### （1）「抱樸館を支える会」の様子について

まず、本（20）年6月末現在の「抱樸館を支える会」の賛助会員数は9,863  
名になりました。会の発足当初は、この会の賛助会員数が「1万名に近づく」な  
どということは想像もできないことでした。しかし、7年前の2013年8月から  
隔月で「会報」を発行してきました。その結果、この「会報」発行以降は「抱樸館  
を支える会」を脱退される方が大きく減少し、賛助会員数は増加の一途をたどっ  
てきました。その結果として、本（20）年6月末現在、賛助会員数は9,863名  
になりました。すなわち、あと137人で「夢の1万人」に到達することになりま  
す。

本当にありがたいことです。どうかこれからも「抱樸館を支える会」をお支えく  
ださいよう、心からお願い申し上げます。

#### （2）「抱樸館を支える会」は昨（19）年度、以下のとおり、「抱樸館福岡」などに合 計2,500万円の寄付をいたしました。なかでも、「生活に困窮する子どもたち」 への支援のために1,000万円を寄付しています。その上で、「支える会」は2, 837,536円の黒字で決算することが出来ました。

（1）今年度の収入は、前年度繰越金を含めて、30,893,419円でした。  
賛助会費は組合員、一般会員、企業会員合わせて26,751,505円でし  
た。

（2）支出としては抱樸館（北九州、福岡、熊本）の他、前年に引き続き「子ども  
の居場所」関係に寄付しました。

(3) 具体的には、以下のとおり、寄付いたしました。

|           |             |
|-----------|-------------|
| 抱樸館福岡     | 12,000,000円 |
| 抱樸館北九州    | 2,000,000円  |
| 子どもの居場所関係 | 10,000,000円 |
| 抱樸館熊本     | 1,000,000円  |
| 合 計       | 25,000,000円 |

(4) 支出の合計は、寄付を含めて、28,055,883円でした。

(5) 2019年度の収支差額は、2,837,536円となりました。

(3) 上述しましたとおり、「支える会」は「子どもの居場所づくり」などのために、一昨昨(17)年度、一昨(18)年度に引き続き、昨(19)年度も、1,000万円を寄付することが出来ました。

その結果として、まだまだ福岡都市圏が中心ではありますが「生活に困窮する子どもたち」を支援する取り組みの輪が広がり始めています。特に、福岡都市圏の中学校、そして小学校に、「食育」としての「朝食支援」の取り組みが広がり始めています。この「朝食支援」の取り組みは、子どもたちの身体を守る上で、大きな社会的意義のある取り組みとして、今後、さらに広がっていくことが期待されています。

(4)「抱樸館福岡」は「支える会」からの寄付金1,200万円を算入した上で、昨(19)年度は11,289,569円の赤字で決算することになりました。

(1)「抱樸館福岡」の建物建設費は2億3,317万円でした。

(2)そして、昨(19)年度は赤字でしたが、建物の減価償却費として、10,249,555円を計上しています。その結果、累計減価償却費は101,641,370円になっています。

(3)しかし、昨(19)年は赤字でしたので、昨(19)年度末現在の「抱樸館福岡」の累計剰余は59,056,966円に減少しています。

(4)しかしそれでも、「抱樸館福岡」の累計剰余(59,056,966円)と累計減価償却費(101,641,370円)を合算しますと、1億60,698,336円になります。これは、「抱樸館福岡」の建物建設費(2億3,317万円)の68.92%に相当いたします。

(5)ですから、私たちは「抱樸館福岡」の建物建設費の69%弱に相当する償却をすでに終えている、ということになります。

(6)また、昨(19)年度、赤字を発生させてしまったことを深く反省し、今(20)年度は必ず黒字に転換させる、と現場の経営責任者は申しています。どうかご容赦賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

以上

## 抱樸館福岡のアフター部門の居住支援の活動について

～坪田副館長と久保主任に話を聞きました～

抱樸館福岡のアフター部門は、抱樸館福岡を退居して地域生活を送る方を中心に支援を行っています。また、2017年10月から新たな住宅セーフティネット制度がスタートし、抱樸館福岡も2018年3月に福岡県から居住支援法人（※）の指定を受けました。

※ 住宅セーフティネット法に基づき、居住支援を行う法人として都道府県が指定するもので、NPO法人、一般社団法人、一般財団法人（公益社団法人・財団法人を含む）、社会福祉法人、居住支援を目的とする会社等が指定されます。

今回、抱樸館福岡のアフター部門と居住支援法人の双方の業務を担当している坪田副館長と久保主任に話を聞きました。



久保主任

坪田副館長

—これまでアフター部門は卒業生の地域生活の支援を行っていましたが、居住支援法人ではどのようなことをしているのか、坪田副館長から説明をお願いします。

「抱樸館を退居する方もそうですが、住宅確保要配慮者（※）に対して、入居しやすい住居を提供する役割です。また、必要に応じてその後の地域生活の支援も行います。居住支援法人の取組みを開始して2019年度末までに285名（うち抱樸館入居者は267名）の方に支援を実施してきました」

※ 住宅セーフティネット法において、低額所得者、被災者、高齢者、障害者、子供を養育する者、その他住宅の確保に特に配慮を要する者とされています。

—居住支援法人ではどのような相談が多いですか。

「住まいに関する問題は多岐にわたります。住居が無い单身の方の場合は抱樸館を紹介し一時的に抱樸館に入居することもできますが、住まいはあるが家族間の問題解決のために家を出たいけどお金が無い、家族がいるから抱樸館にも入れないといったケースや、DV被害を受け赤ちゃんと飛び出してきた親子など、対応困難な相談も少なくありません」

「また、居住支援法人の活動エリアを福岡市とその周辺地域としているので、福岡市内だけでなく、春日市や太宰府市などにも面談で現地に出かけています。そのように結構、体力がかかる仕事です。今日は久保主任が区役所に行って居住支援法人の面談を行います。久保主任は卒業生の地域生活の支援や、居住支援法人の面談対応など様々な場面で活躍しています」

—それでは、地域で活躍中の久保さんに話を聞きます。NPO法人抱樸の職員だそうですね。ホームレス支援は昔から興味があったのですか。

「大学を卒業後、NPO法人抱樸に入職し、今年で12年目になります。ホームレス支援については、中学生の頃に北九州で炊き出しに参加したことがあって、路上で生活する方がたくさんいることに衝撃を受けました。その経験がずっと心の中に残っていました。就職先を見つけていたときに声がかかり、人のためになるのならと思い入職しました」

—最初から抱樸館福岡で働かれていますか。

「2009年5月にNPO法人抱樸に入職し、その年の8月まで北九州市のホームレス自立支援センターで研修を受け、2009年9月に福岡市東区香椎のマンションの一室で活動していた抱樸館福岡準備室に異動しました」

—抱樸館福岡準備室ではどのような仕事をしていましたか。

「路上生活をされている方に声掛けを行い、路上生活を脱出したいと希望される方に対して、アパート探しや、その後の生活支援（金銭管理や病院等の同行など）を行いました。当時、

58名の方に支援を実施しました」

――その翌年に抱樸館福岡が開所するのですね。

「はい。抱樸館福岡が開所した当時は満室状態が続き、短期間で退居し、地域生活に移る方が多くいました。抱樸館内での支援と違い、地域生活の支援は非常に時間、体力が必要なこともあり、アフターサポートを専任する部門ができました」

――抱樸館福岡では入居者への支援も行いながら、アフター部門も担当されていたと思いますが、違いはありますか。

「やはり抱樸館に入居している間は目が届く分、支援はやりやすいです。アフターは地域生活の支援になるので、非常に時間と体力がかかります。特に、最近は支援対象の卒業生が高齢化しているので、病院や施設に移る手続きや亡くなった方の死後事務等が多くなりました。今日もこれから、認知症が進みグループホームに転居する方のアパートの退居手続きに行きます」

#### 退居手続きに同行しました。

対象の卒業生は68歳の一人暮らしのAさんです。認知症が進行し、外出しても警察に保護されるという日が続きました。担当のケースワーカー（生活保護課）が施設を探し、ようやくグループホームが見つかったので、今回引越しできるようになりました。

この日は、清掃会社と不動産会社の立会いの下、玄関、台所、部屋の点検が行われます。

認知症が進むまでは比較的落ち着いた

生活をされていたようで、部屋の点検を行っても特に大きな問題は見当たりませんでした。これで無事に退居手続きが完了です。

#### 居住支援法人の面談に同行しました。

その後、居住支援法人の相談があり、区役所で面談があるとのことで同行しました。

相談者は外国籍の30代女性で生後1か月の赤ちゃんを抱えていました。新型コロナの影響で仕事がなくなり、身を寄せている知人の家も出ないといけなくなり、区役所に相談したそうです。出先の調整に困った区役所か

ら抱樸館福岡の居住支援法人に相談がありました。

区役所の担当者と相談者、久保さんの3人行先を調整しましたが、今回はひとまず母子寮に入



って、再度引越し先を探すということで相談が終わりました。

――今日はとても忙しかったですが、いつもこのような感じですか。

「卒業生は年々増えますので、忙しくはなっても暇になることはありません。以前は私一人に対応していましたが、現在、アフター部門は居住支援法人の業務も行うことから全体で4名の体制となっていますので、一人にかかる負荷は軽減されています。それでも、ここ数年は年々逝去されている方も増えて、その後の対応に時間がかかったりしています」

――これまで支援した方が1,200名以上ですが、すべての方に対応しているのですか。

「その後、お亡くなりになったり、転居されて行方が分からなくなったりしている方もいますので、連絡が取れる卒業生の方は700名くらいで、困りごとが発生したときに対応しています」

――今後の抱負を教えてください。

「アフターの仕事は『死』と近い仕事でもあります。お亡くなりになる前にご家族へ連絡を取って最後に対面できた場面にも遭遇しましたし、お亡くなりになった後に連絡が取れて遺骨を引き取りに来たご家族もいますので、お亡くなりになる方がさみしい思いをしないような支援をしたいです。これまで卒業生の方々と話し合ってきたことが少しずつ実現しています。例えば、お亡くなりになった仲間を追悼する偲ぶ会の開催や卒業生が入る墓の建設です。そして、最近少しずつではありますが、地域で卒業生同士が見守りを行う形が自然にできてきています。『卒業生同士だと角が立つから抱樸館の相談員から声かけてみてよ』という連絡もあります」

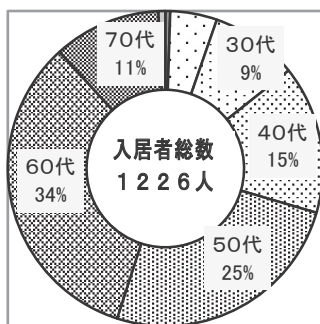
――抱樸館の長年の夢だった「卒業生同士の見守り」が現実になんて近づいてきていることは嬉しいですね。ありがとうございました。





## 抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2020年6月末までの入居者数



|     | 人数   | 割合    |
|-----|------|-------|
| 10代 | 6    | 0.5%  |
| 20代 | 61   | 5.0%  |
| 30代 | 108  | 8.8%  |
| 40代 | 186  | 15.2% |
| 50代 | 310  | 25.3% |
| 60代 | 411  | 33.5% |
| 70代 | 135  | 11.0% |
| 80代 | 9    | 0.7%  |
| 計   | 1226 | 100%  |

2020年6月末現在の入居者

51人（定員81名） 男性51名、女性0名

2020年5～6月の新入居者数・退居者数

新入居者数7名 退居者数15名

（注：6月末までの入居者数1226名は、  
2度・3度入居した人も1名と数えています。）

抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際に  
ご案内します。

## 抱樸館福岡の見学のご案内

- （1）グリーンコープ生協として見学される場合は、所定の用紙でお申送ください。
- （2）個人もしくは知り合いと一緒に

に見学される場合は、直接抱樸館福岡にご連絡ください。  
◇出来れば5名以上でお願いします。（ホームページからも見学の申込が出来ます）

なお、1名あたり1000円の見学料をお願いしています。これには昼食代を含んでいます。昼食は入居者が日ごろ食べている食堂で同じものを食べていただきます。

## 抱樸館を支える会の概要

## 抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日：抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員：以下の17団体が正会員です。

- グリーンコープの各単協（14生協）
- グリーンコープ連合会
- NPO法人 抱樸（旧：北九州ホームレス支援機構）
- 社会福祉法人グリーンコープ

## 賛助会員

2020年6月末の賛助会員は、以下の通り

- グリーンコープの共同購入組員 9,863名
- グリーンコープの店舗組員・一般の方 179名
- 企業賛助会員 104社

## その他（抱樸館の所在地）

- 抱樸館福岡（福岡市東区） 2010年 5月開所
- 抱樸館北九州（北九州市八幡東区） 2013年 9月開所
- 抱樸館下関：新たに開設を準備中
- 抱樸館熊本（熊本市中央区） 2018年12月開所

## 抱樸館を支える会 賛助会員と会費について

## 抱樸館を支える会 賛助会員募集

賛助会員を募集しています。  
賛助会員には、会報をお届けします。

## グリーンコープの共同購入組員

賛助会員の申込には2つの方法があります。

- ①毎月250円の賛助会費を申し込みいただく（年間で3000円です）

毎月の商品代金と一緒に引き落としとなります。  
共同購入申込書の「1300」で申し込みください。

- ②101000円の賛助会費を申し込みいただく。何口でも申し込み出来ます。

申し込みいただいた月の商品代金と一緒に一括して引き落としとなります。

共同購入申込書の「1299」で申し込みください。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。（グリーンコープの共同購入組員の場合）

①の賛助会員は毎月継続して250円請求させていただきます。②の会員は申し込みいただいた月に毎年一括して請求させていただきます。

## 一般の方、グリーンコープの店舗組員

101000円の賛助会費を何口でも申し込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

## 企業賛助会員 募集中です

企業賛助会員は、会費が1010,000円です。出来れば30（30,000円）以上でお願いします。申し込みは、下記へ。

## 「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号

社会福祉法人グリーンコープ内

電話 092-482-1964

## 抱樸館の連絡先

抱樸館福岡（電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772）

〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州（電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705）

〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-11

抱樸館熊本（電話 096-245-7521 FAX 096-245-7522）

〒860-0811 熊本市中央区本荘